



▲急流球磨川をまたぐ「葉木橋」の全景



▲揚水式の大平発電所は世界的規模を誇る



▲近代的教育施設の統合中学校

ふるさと：山と川と空

坂本村は、熊本県の中南部に位置し、総面積一六二・一九平方キロの約九〇％は、山林等で隣接市町村に北は八代郡東陽村、東及び南には球磨郡五木・山江村・芦北郡芦北町、西は八代市がある。地形は南部に九州山脈の一、〇三三mを最高に隣接市町村との境界になる各山稜によって囲まれ、その中央部を南北に貫流する球磨川が、村を画然と二分しており急峻な山地の多い東部と比較的に標高が低く農地の多い西部とに区分できる。現在、二、四七五戸、九、九八八人の人口は、球磨川沿岸を主にして各支流沿いに生活の場が形成されており、七十五部落が広範囲に分散している。交通は国鉄肥薩線と国道二一九号線を利用し、八代市まで二〇分と至便である。年平均気温一六度と温かな気候と年間二、〇二〇ミリの降水量は良質の農産物、林産物を産出し、球磨川の流れば、各種の淡水魚の水揚げがあり、豊かな緑と澄んだ球磨川の清流から生まれる自然の恵みは、私達の生活に潤いを与えてくれる。

品質を誇る農産物

▼坂本みかん……球磨川沿岸は従来から適地としてみかんの栽培が盛んに行われ農家所得に占めるウエイトは高い。しかし、温州みかんの低調により最近では、老木・不良系統樹は積極的に優良種へ改植・転作等押し進めている。坂本みか

んの特性は、年が明けてから商品性が高まり、特に三月からの出荷においてはおいしいみかんとして市場から高く評価されている。

▼うまい米……当村西部の水田地帯で生産される米は、特にうまい米として消費者から常に喜ばれている。又、数年前から水稲の裏作として草栽培が盛んとなり上質の原草が生産され取り引き価格も高く、農業収入の中で換金作物として最も主要な位置にある。今後も生産性の向上を図るべく、更には場整備を促進する必要がある。

▼坂本茶……気象条件等からみて当村東部は、茶の生育に最も適しており昔からうまくて香り高い茶が生産され山間部の主要な収入源となっている。なお、県茶業振興地域に指定され、茶業経営の安定を図る為、茶園の集団化と国有林野の活用による茶園造成（一〇ha）を行い、さらに、制度事業等により近代化された製茶工場を各地区単位に設置し、優良茶の生産・販売に努力しており坂本茶の名声は高まりつつある。

▼商品価値の高い木材……当村の林野面積は、一四、一八七haで総面積の八八％を占め、人工林率七八％と高い数値を示し、その大半が戦後植林されたものである。従って伐期対象林野は、八五三ha（民有林）に過ぎず、多くは除間伐等要する林野である。こうした現状から、昭和四十七年度まで第一次林業構造事業を、更に昭和五十三年度より第二次林業

構造改善事業を実施しており、経営基盤の充実・資本装備の高度化・協業の推進等を図っている。とりわけ、除間伐等の諸作業を容易にし、生産性の向上をめざし作業道開設に必要な建設機械の導入には力を注いでいる。又、優良な木材生産を促す為、除間伐及び枝打ちの模範展示林を地区別に指定し、技術の普及向上に努めている。尚、特殊林産物の生産拡大のため、山菜・葉草、花木類の試作展示場を設置し、木材と併せて特産物として商品化をめざし、日々努力している。

▼球磨川の恵み……球磨川の清流には古くから鮎をはじめ淡水魚の宝庫の名にふさわしく多種の魚が生息している。最近では、レジャーを兼ねた絶好の釣場として、遠くは北九州方面からの太公望も多い。淡水魚の資源確保の為に毎年、球磨川本流には鮎、鰻、各支流には条件に合わせて、ヤマメ・鰻等の種苗を放流しており、一方、作る漁業の養殖にあつては、鮎、マスを主体にして経営がなされており訪れるお客の好みに合わせた川魚料理は、最も新鮮で最高の珍味として喜ばれている。

創造と躍進を合い言葉に

昭和三十六年に三カ村合併し坂本村誕生以来、十八年もの歳月が過ぎその間各種の施策が着々と実施されてきたが、とりわけ教育の振興・道路整備等の施策には確実にその成果が表われてきている。「村づくりは人づくりから」の合い言葉

は、小中学校はもとより村立保育所の開設、中央公民館の新築と施設面での整備充実ぶりは、文字通り生涯教育の実践を旨としたものである。学校施設においても体育施設（屋内運動場・プール）、夜間照明施設等も全校完備し、住民全ての体力、福祉増進に供している。更に、昭和五十年四月には、村内五中学校を統合し寄宿舎をも完備する近代的教育施策のもとで、明日の「さかもと」を荷負う子供達の歓声は絶えることはない。しかし、こうした施設整備とは逆に、近年の社会状況の変化と相まって人口の村外流出は今日大きな問題として残されている。急激な過疎化の波は、県下でも一、二の過疎地域としてその名を連ねてきたが、最近では徐々に人口流出も弱まってきている。こうした動きも、豊かな村づくりをめざした各施策の表われでもあり、又県内第二の工業都市八代市まで二十分という地理的条件と交通網の整備に伴いベッタタウンとして見なおされるようになってきたからであろう。さらに、九州縦貫自動車道の八代市まで延長や村内路線表が行われたことにより、他道路等の整備と併せて一段と都市部との距離が狭まりつつある。このような社会的要因を機にさらに大きく飛躍しようとしている。山紫水明の豊かな自然は、私達坂本村民の最も大きな財産であり、私達自身の手で次代へ守り伝えたいものと「さかもと」を末永く残してゆきたいものである。